飯田女子短期大学紀要 第33集，163-170，2016

食に携わる集団を対象とした甘茶の知識に関する実態調査

山下紗也加・川 俣 幸 一

Survey on Knowledge of Hydrangea Tea that Targets a Population Engaged in Food

Sayaka YAMASHITA and Koichi KAWAMATA

要旨：甘茶は甘味料や生薬として使用されてきたとされる一方で仏教行事にも用いられてきており，多くの人々が一度は甘茶に親しんだ経験があると推察される．そこで甘茶に関する国内の実態の一端を明らかにする目的で本研究を行った．長野県の食生活改善推進員，現職栄養士を対象に「灌仏会（花まつり）・甘茶に関するアンケート」を実施し，有効回答の結果を集計した（有効回答率34.0%）．地域で灌仏会が開催されていることを知らない人が多いものの，知っていると答えた人のうち約７割が灌仏会に参加したことがあり，８割以上が灌仏をしたことがある，約８割が灌仏会で甘茶を飲むと答えた．灌仏会について30年以内の記憶と答えた人が最も多かったことから，現代は昔と比べ灌仏会や甘茶に親しむ機会が減っている可能性があり，周知のためのきっかけや甘茶の効能を活かした使用方法も広めていけたら良いのではないだろうか．食文化の一つとしてこのような文化を残していく工夫が必要であると考えられた．

Key words：甘茶（hydrangea tea），灌仏会（Buddha's birthday），食文化（food culture）

目　的

甘茶（*Hydrangea macrophylla var. thunbergii*）を飲用するのは日本独自の文化とされており，古くから砂糖の代わりの甘味料として利用され，葉の粉末は生薬として使用されてきた．また，仏教行事の一つである灌仏会（花まつり）では，お釈迦様の誕生にまつわる伝説に出てくる甘露の雨の代わりとして，お釈迦様の誕生仏像に甘茶をかける「灌仏」にも用いられてきた．そのため，多くの人々が今までに一度は甘茶を飲んだり灌仏をしたりして甘茶に親しんだ経験があると推察される．一方，趣味・趣向，生き方などが多様化してきた現代においては，年代や性別，出身地域などにより甘茶との関わり方や利用方法などに違いがあると考えられる．今後，日本の甘茶文化を後世に伝えていく中で，その経験や考え方の違いを認識することは重要であるが，それらの事情について詳細に調査した報告は見当たらない．

そこで本研究では，甘茶に関する国内の実態の一端を明らかにする目的で，全国有数の甘茶の産地である長野県において，食とのかかわりが深いとされる集団を対象に，甘茶についてのアンケート調査を実施した．その結果いくつかの知見を得ることができたので報告する．なお，食に携わる市民として食生活改善推進員を，食に携わる専門職として現職栄養士を対象として行った．また，今回調査地域を長野県とした理由は，甘茶の出荷量が国内総出荷量の80%を占める全国一位の産地

2015年3月31日受付；2016年3月31日受理

であり，他県に先んじて甘茶に対する造詣が深い地域と推測されたためである．

方　法

1．アンケート調査

2012年９月から2013年４月にかけて，対象である食生活改善推進員および栄養士の集団に対し，それぞれ16項目からなる「灌仏会（花まつり）・甘茶に関するアンケート」調査を依頼した．食生活改善推進員においては，長野県全19市のうち同意の得られた15市各地域の食生活改善推進員の長に郵送でまとめて送付し，配布方法は対象地域の担当者に一任し，配布数663部，回収数429部，回収率は64.7％であった．栄養士においては，３地域で行われた大規模研修会の担当者にその配布を一任し，研修会にて配布され，配布数237部，回収数199部，回収率は84.0％であった．回収されたアンケートのうち誤回答・未回答のあるものを除き，最終的な有効回答数は，全体として306部（34.0％），食生活改善推進員で187部28.2％），栄養士で119部（50.2％）であった．

2．集計方法および研究理論

数値は基本的に人数（％）または平均±標準偏差で示した．統計処理は，χ2検定（適合度検定）を実施した．また，問1-1以降は，表２に示す問１で「はい」と回答した者について分析を行った．

3．倫理的配慮

アンケート配布時には，本アンケートの趣旨を伝えるとともに回答は任意であること，回答しなかったことによる不利益がないこと，無記名制であり個人情報は守られること，参加者の回答をもって同意とする旨などを伝えてもらった．なお本研究は飯田女子短期大学研究倫理委員会ならびに調査対象集団の承認を受けた．

結　果

1．属性について

今回調査した対象の属性について表１に示した．全体の306人中，男性は４人で98.7％が女性であった．年齢は，「60歳代」が最も

表１　対象者の属性

n=306

		全体		食生活改善推進員		栄養士		p値[1]
		人数　(%)	p値	人数　(%)	p値	人数　(%)	p値	
性別	男性	4（ 1.3）	<0.001	3（ 1.6）	<0.001	1（ 0.8）	<0.001	0.566
	女性	302（98.7）		184（98.4）		118（99.2）		
年齢	20歳代	34（11.1）	<0.001	0（ 0.0）	<0.001	34（28.6）	<0.001	<0.001
	30歳代	36（11.8）		3（ 1.6）		33（27.7）		
	40歳代	29（ 9.5）		3（ 1.6）		26（21.8）		
	50歳代	46（15.0）		26（13.9）		20（16.8）		
	60歳代	106（34.6）		101（54.0）		5（ 4.2）		
	70歳以上	55（18.0）		54（28.9）		1（ 0.8）		
現住所	北信	78（25.5）	<0.001	31（16.6）	<0.001	47（39.5）	0.001	<0.001
	東信	95（31.0）		76（40.6）		19（16.0）		
	中信	92（30.1）		60（32.1）		32（26.9）		
	南信	41（13.4）		20（10.7）		21（17.6）		
出身地	北信	82（26.8）	<0.001	37（19.8）	<0.001	45（37.8）	<0.001	<0.001
	東信	90（29.4）		70（37.4）		20（16.8）		
	中信	63（20.6）		41（21.9）		22（18.5）		
	南信	35（11.4）		18（ 9.6）		17（14.3）		
	長野県外	36（11.8）		21（11.2）		15（12.6）		

1）食生活改善推進員 vs 栄養士

多く，次に「70歳以上」，「50歳代」の人が多かった．現住所は「東信」が一番多く，「中信」も同程度であった．出身地についても，最も多いのは「東信」で，次点が「北信」であった．

2．灌仏会（花まつり）・甘茶に関するアンケートについて

灌仏会・甘茶に関するアンケート質問項目の回答について，表２および表３に示した．灌仏会（花まつり）がおこなわれていることを知っている人は68人と全体の22.2%であり，そのうち現住所の灌仏会について知っている人が69.1%，出身地の灌仏会について知っている人が30.9%であった（問１）．また，いつの記憶かという質問（問２）では，「30年以内」が最も多く32.4%，次に「今年の記憶（１年以内）」が26.5%であった．「５年以内」という人も多かった．灌仏会に参加したことがあるかという問い（問３）では，全体を見ると「参加したことがある」が69.1%，「参加したことがない」が30.9%と，参加したことがあるという人が多かった．食生活改善推進員と栄養士の結果を比べてみると，食生活改善推進員は71.4%が，栄養士では63.2%が参加したことがあるという結果となった．

灌仏会（花まつり）が開催されていることを知っていると答えた人の中で，参加した灌仏会がお寺で開催されたと答えた人は，77.9%，お寺以外と答えた人は，22.1%という結果になった（問４）．食生活改善推進員と栄養士の結果を比べてみると，お寺で開催されたと答えた人は，食生活改善推進員で81.6%，栄養士で68.4%となった．

灌仏会はいつごろ開催されるかという問い（問５）では，「４月８日前後」と「５月８日前後」，「わからない」，「その他」，という４つの項目を設けた．「４月８日前後」はお釈迦様が誕生したとされている日であり，「５月８日前後」はその旧暦にあたるため選択肢に加えた．「４月８日前後」と答えた人が58.8%，「５月８日前後」と答えた人が32.4%，「わからない」と答えた人が5.9%，「その他」が2.9%という結果になった．この問いでは食生活改善推進員と栄養士の回答に差は出なかった．開催された灌仏会の宗派はわかるかという問い（問６）では，「わかる」42.6%，「わからない」41.2%で，「特に宗派はなく地域で行われた」と答えた人が16.2%という結果になった．食生活改善推進員と栄養士を比べると，食生活改善推進員では「わかる」と答えた人が多かったが，栄養士では，「わからない」と答えた人が多く，有意に異なっていた（$p<0.001$）．また，どこの宗派で最も灌仏会が行われているかを集計した結果，最も多い宗派は曹洞宗であった（表３）．灌仏会で式典や稚児行列，法妹などの催しはあるかという問い（問７）では，「催しがある」と答えた人は55.9%，「そのような催しはない」と答えた人は44.1%と催しの有無に差はなかった．灌仏会でお釈迦様へ甘茶をかける灌仏はあるかという問い（問８）では，「ある」と答えた人は86.8%，「ない」と答えた人は13.2%と灌仏は多くの灌仏会で行われているようだった．また食生活改善推進員と栄養士を比べてみても「ある」と答えた人のほうが圧倒的に多く，集団による差はなかった．

灌仏会で甘茶を飲むかという問い（問９）では，「飲む」と答えた人は69.1%，「飲まない」と答えた人は30.9%となった．灌仏会で，行事にちなんだ料理などを食べるかという問い（問10）では，「食べる」と答えた人が13.2%，「食べない」と答えた人が86.8%という結果になった．「食べない」と答えた人が圧倒的に多かったが，「食べる」と答えた人の中に赤飯や饅頭，団子を食べると答えた人もいた（表３）．灌仏会に関係なく，甘茶をお神酒などに使うかという問い（問11）

表2　灌仏会（花まつり）・甘茶に関するアンケート①

	全体		食生活改善推進員		栄養士		p値[1]
	人数（%）	p値	人数（%）	p値	人数（%）	p値	
問1. 現在お住まいの地域または、ご出身の地域において灌仏会（花まつり）は開催されていることをご存知ですか。（n=306）							
はい	68（22.2）	<0.001	49（26.2）	<0.001	19（16.0）	<0.001	0.036
いいえ	238（77.8）		138（73.8）		100（84.0）		
問1-1. どちらの地域の灌仏会（花まつり）について、よくご存知ですか。[2]（n=68）							
現住所	47（69.1）	<0.002	34（69.4）	0.007	13（68.4）	0.108	0.938
出身地	21（30.9）		15（30.6）		6（31.6）		
問2. 今からご記入いただく情報はおおむね何年前のご記憶になりますか。[2]（n=68）							
今年の記憶(1年以内)	18（26.5）	<0.001	15（30.6）	0.001	3（15.8）	0.293	0.702
5年以内	12（17.6）		8（16.3）		4（21.1）		
10年以内	4（5.9）		3（6.1）		1（5.3）		
20年以内	10（14.7）		6（12.2）		4（21.1）		
30年以内	22（32.4）		15（30.6）		7（36.8）		
40年以上前	2（2.9）		2（4.1）		0（0.0）		
問3. 灌仏会（花まつり）に参加されたことはありますか。[2]（n=68）							
参加したことがある	47（69.1）	<0.002	35（71.4）	0.003	12（63.2）	0.251	0.508
参加したことはない	21（30.9）		14（28.6）		7（36.8）		
問4. 灌仏会（花まつり）はお寺で開催されますか。[2]（n=68）							
お寺で開催された	53（77.9）	<0.001	40（81.6）	<0.001	13（68.4）	0.108	0.238
お寺以外で開催された	15（22.1）		9（18.4）		6（31.6）		
問5. 灌仏会（花まつり）はいつ頃開催されますか。[2]（n=68）							
4月8日前後	40（58.8）	<0.001	29（59.2）	<0.001	11（57.9）	0.040	0.626
5月8日前後	22（32.4）		16（32.7）		6（31.6）		
わからない	4（5.9）		2（4.1）		2（10.5）		
その他	2（2.9）		2（4.1）		0（0.0）		
問6. 開催された灌仏会（花まつり）の宗派はわかりますか。[2]（n=68）							
わかる	29（42.6）	<0.011	26（53.1）	0.012	3（15.8）	<0.001	<0.001
わからない	28（41.2）		13（26.5）		15（78.9）		
特に宗派はなく、地域で行われていた	11（16.2）		10（20.4）		1（5.3）		
問7. 灌仏会（花まつり）で式典や稚児行列、法妹などの催しはありますか。[2]（n=68）							
催しがある	38（55.9）	<0.332	29（59.2）	0.199	9（47.4）	0.819	0.379
そのような催しはない	30（44.1）		20（40.8）		10（52.6）		
問8. お釈迦様への灌仏（甘茶をかける）をしたことはありますか。[2]（n=68）							
ある	59（86.8）	<0.001	43（87.8）	<0.001	16（84.2）	0.003	0.699
ない	9（13.2）		6（12.2）		3（15.8）		
問9. 灌仏会（花まつり）では甘茶を飲みますか。[2]（n=68）							
飲む	47（69.1）	0.002	32（65.3）	0.032	15（78.9）	0.012	0.133
飲まない	21（30.9）		17（34.7）		4（21.1）		
問10. 灌仏会（花まつり）にちなんだ料理などを食べますか。[2]（n=68）							
食べる	9（13.2）	<0.001	7（14.3）	<0.001	2（10.5）	0.001	0.681
食べない	59（86.8）		42（85.7）		17（89.5）		
問11. 灌仏会（花まつり）に関係なく、甘茶をお神酒などに使うことはありますか。[2]（n=68）							
使う	6（8.8）	<0.001	6（12.2）	<0.001	0（0.0）	–	0.110
使わない	62（91.2）		43（87.8）		19（100.0）		

1）食生活改善推進員 vs 栄養士
2）問１で「はい」と答えた人のみの回答

表３　灌仏会（花まつり）・甘茶に関するアンケート②[1)]

問４. 灌仏会（花まつり）はお寺で開催されますか。

「お寺以外で開催された」と回答し、寺以外で開催された場所の自由記述

・公民館、市民会館（８件）
・幼稚園（４件）
・神社等（３件）
・町中などの地域（２件）

問６. 開催された灌仏会（花まつり）の宗派はわかりますか。

・曹洞宗（10件）
・浄土宗（７件）
・真言宗（５件）
・浄土真宗（３件）
・日蓮宗（２件）
・禅宗（２件）
・天台宗（１件）
・仏教（１件）

問10. 灌仏会（花まつり）にちなんだ料理などを食べますか（複数回答可）

餅系（６件）

・草餅（よもぎ）
・団子
・やしょうま
・ちなんでいるかは不明だがその時仏教婦人会の一年の総会を行い、その時役員さんが持ち寄りでお料理を出してくれる。昼食もあり、必ず柏餅が出される。
・饅頭を餅投げのようにお寺から投げ、拾う
・団子を投げてみんなで拾う

飴系（１件）

・甘茶飴をいただく

ごはん系（３件）

・赤飯
・ネギのぬた
・灌仏会にちなんだ料理ではないが、それぞれが持ち寄った料理を食べた

問11. 灌仏会（花まつり）に関係なく、甘茶をお神酒などに使うことはありますか（複数回答可）

灌仏会（花まつり）以外でのお祭りでの使用（３件）

・道祖神で子供たちが一軒一軒甘茶を配りお祓い
・お正月の２日に獅子舞を子供会が行う。各家庭を廻り無病息災を祈る。その時に甘茶をいただく。
・小学生の獅子舞の時に全員に配る

虫よけに使用（１件）

・苗間にかけ、イネに虫がつかないようにする

その他（２件）

・甘茶はペットボトルに入れ家族も飲む。
・お寺参りの時

1）問１で「はい」と答えた人のみの回答

では，「使う」と答えた人は8.8%，「使わない」と答えた人は91.2%であり，「使わない」と答えた人が多かった．

考　察

問１の質問において，地域で灌仏会が行われていることを知っている人は全体の約２割と少なかった．特に食生活改善推進員では26.2%の人が知っていたのに対し，栄養士は16.0%と少なかった．これは，栄養士と食生活改善推進員の年齢層が異なるためではないかと考えられる．栄養士は20歳から40歳代の人が多く，食生活改善推進員は50歳から70歳以上の人がほとんどを占めていた．食生活改善推進員は，人生経験が長く宗教（仏教行事）に関わる機会が多く，栄養士のように年代が若い集団は灌仏会のような仏教行事に関わる機会が少なかったと考えられる．また，問２では「今年の記憶（１年以内）」と答えた人が多かったが，それ以上に「30年以内」の記憶と答えた人が最も多かった．このことから，前は灌仏会に関わりがあったが，それ以降（最近）は関わりがなくなったということが言えるだろう．つまり，現代は昔と比べ灌仏会や甘茶に親しむ機会が減っている可能性があると考えられる．食文化の一つとして，現代にもこうした文化を残していくために，何かきっかけが必要なのではないだろうか．

問３の結果より，灌仏会に「参加したことがある」と答えた人が全体で69.1%と多くの人が参加していた．ここでも，食生活改善推進員の71.4%が参加したことがあり，栄養士の63.2%を上回っていた．ここで問４の開催された場所について見ると灌仏会が仏教行事であるためか「お寺で開催された」という人が多かったが，「お寺以外で開催された」という人も22.1%いた．そのように答えた人の中で多かった開催場所が「公民館」，「幼稚園」であった（表３）．お寺以外にも，地域の行事として開催されていることがわかった．また「娘の通っている幼稚園」という回答もあり，自分の子供など家族がきっかけとなり参加した人もいるようだ．お寺には馴染みのない人でも，このような場所から灌仏会や甘茶に関わることができるのではないだろうか．地域で多く作られていて親しまれてきた甘茶を残していくために，子供からお年寄りまで，みんなが関わることの出来る行事内容を工夫して行っていくと良いのではないだろうか．例えば，地域や幼稚園などの灌仏会で，子供が衣装を着て通りを歩く「稚児行列」やインド風の装束を着た少女たちが舞を奉納する「法舞」を行うなどである．問７では，灌仏会でこれらの催しや式典はあるか質問したが，「催しがある」と答えたのは全体の55.9%であった．子供が主体となって参加することのできる稚児行列や法舞を行うことで，その家族も一緒になって，参加する機会が得られるのではないだろうか．また，こうした行事を小さい頃から体験することは子供にとっても良い経験になると考えられる．

この他に，開催する時期でも参加のしやすさは変わってくるだろう．問５のアンケート結果では，「４月８日前後」に行ったと答えた人が58.8%と最も多かったが，「５月８日前後」と答えた人も32.4%いた．花まつりは４月８日に行うのが一般的であり，各宗派の多くの寺院ではこの日に行われているだろう[1)]．しかし保育の場では，この日に行うことは非常に難しいであろう．なぜならば，４月８日は入園・進級と重なるからである．４月は園内が１年で最も落ち着かない時期であり，この時期に花まつりという行事を組み立て，子供たちに活動を展開させることは難しいと考える．しかし，仏教系の園にとっては，非常に大切な行事であるため，それぞれの園の状況によって時期をずらし，４月後半から５月あたりに行う園が多い[1)]．このように，開催時期を変えることによりゆとりがで

き，親子で灌仏会や催しなどに参加しやすくなると考えられる．灌仏会や甘茶に関わる機会が増えるように工夫をし，こうした行事に親しむきっかけを作っていくことで，食文化として現代にも甘茶を残していけるのではないだろうか．

甘茶についての回答を見てみると，問８のお釈迦様への灌仏をしたことが「ある」と答えた人は全体で86.8%を占めており，問９の灌仏会で甘茶を「飲む」と答えた人も69.1%と多かった．このことから，灌仏会では甘茶がよく使われていると考えられる．灌仏に甘茶が使われているのは，お釈迦様の誕生にまつわる伝説によっている．お釈迦様の誕生を世界中のあらゆる存在（神々も含む）が喜び，天から甘く香しい水（雨）を降らせたというものである．その甘露の雨に代わるものとして，昔からあった甘茶が用いられてきた[2)]．また，お釈迦様が誕生した時，降ってきた甘露の水でそのおからだを清めたと伝えられている．それにちなんで，健康であるようにと願って甘茶を飲んでいる[3)]．このように甘茶は灌仏会と深く関わっており，多くの場所で灌仏などを行っているという結果から，それらが今まで受け継がれてきたのだと言えるのではないだろうか．多くの人が灌仏会をきっかけにして，甘茶のことを知り，親しみを持つのではないかと考えられる．そこで，回覧板や地域の週刊誌などで灌仏会が行われていることを広めていくと良いと思った．灌仏会自体，開催していることを知らないという人が多かったので，甘茶のことをより知ってもらうためにも，まずこのような仏教行事があることを知らせていく必要があるのではないだろうか．

問10で灌仏会にちなんだ料理を「食べる」と答えた人は13.2%と少数であったが，その中で「団子」や「草餅」など餅系のものを食べる人が多かった．「お赤飯」や饅頭などを「餅投げ」するという回答も多く，灌仏会にちなんだ料理には祝いの意味が込められているものが多いと考えられる．「やしょうま」という回答もあり，これは浄土宗や日蓮宗において涅槃会の際に作られる米粉で作られた団子[4)]であると考えられ，地域によっては作られるかもしれないが，回答の際に涅槃会と混同された可能性もある．「甘茶飴をいただく」という答えがあったが，甘茶を使った料理はほぼ無かった．問11では，灌仏会に関係なく甘茶を「使う」と答えた人はかなり少なかった．ここでも，甘茶を「お祓い」や「虫除け」として使うなど，飲用したり食したりするという人は少なかった．これらの結果から，灌仏会や一部の行事では，甘茶を灌仏や飲用するのに用いることが多く，少数意見だったが，農薬の代わりなど変わった使い方もあるということが分かった．また，今回の調査では甘茶を飲む人は多くいたが，甘茶を使った食べ物についてはあまり意見を得ることができなかった．甘茶は甘味料のかわりとしても利用されてきたため，料理に使うのも良いのではないだろうか．独特の甘みがあり好みが分かれてしまう甘茶でも，お菓子などの料理に使用することで，飲めない人でも食べることができるかもしれない．こうしたものを灌仏会などの行事に配るなどすれば，より多くの人に甘茶に親しみを持ってもらえるのではないだろうか．

今回のアンケート調査では，食生活改善推進員と栄養士の２つの集団に分けて調査した．しかし，もともとアンケートを実施した人数が，食生活改善推進員の方が多く栄養士は少なかったため，結果に影響が出てしまった可能性があると考えられる．今回の結果はどちらも似たような結果になったため，今回は２つの集団の差を比較しながら，全体としてはどのような結果になったかを重視して考察した．また，アンケート内容では灌仏会についての質問が多めであったため，もう少し甘茶についてのみの質問項目を作成し，更に

詳しいデータが集められるよう工夫したい．これらは今後のアンケート調査をする際の課題である．

謝　辞

本研究においてお忙しいにもかかわらず調査にご協力をいただきました長野県各市の栄養士の方々，食生活改善推進員の皆様ならびに長野県の栄養士会および栄養士の方々に厚く御礼申し上げます．灌仏会および甘茶についてのご助言をいただきました飯田女子短期大学　柴本むつ美先生ならびに飯田女子高等学校　岩崎歩先生に厚く御礼申し上げます．また，本研究に際しご協力をいただいた原夏紀さん，川上美里さん，木下恵さん，小林愛さん，長谷部遥さんに深く感謝申し上げます．

文　献

1）富岡量秀：仏教行事が伝えること―真宗保育における「花まつり」の「ねらい」―．大谷大学短期大学部幼児教育保育科研究紀要，**11**，21-22，2010.

2）富岡量秀：仏教行事が伝えること―真宗保育における「花まつり」の「ねらい」―．大谷大学短期大学部幼児教育保育科研究紀要，**11**，20，2010.

3）林妙子：幼稚園における仏教行事“花まつり”について．京都文教短期大学研究紀要，**27**，134，1988.

4）信州仏教研究会：信州の仏事，株式会社銀河書房，長野，1985，p.247,273.